高温登熟性に優れる多収・良食味の普通期栽培用水稲品種「あきの舞」

「あきの舞（鹿児島72号）」は「ヒノヒカリ」に比べて高温登熟性に優れ，収量が約10%多く，作期の分散が可能

背景・目的

・本県水稲の普通期栽培では，「ヒノヒカリ」が作付面積の約8割と偏っており，適期栽培や収穫期の分散が困難
・「ヒノヒカリ」はいもち病に弱く，多発年には収量が大きく減少
・「ヒノヒカリ」は高温登熟性が劣り，夏季の高温年には玄米外観品質の低下が問題
・「ヒノヒカリ」と異なる熟期で，高温登熟性に優れ，いもち病抵抗性を有する，多収・良食味の品種が必要

成果の内容

「あきの舞（鹿児島72号）」の特徴（「ヒノヒカリ」と比較）
・出穂期で2日，成熟期で6日遅い　普通期栽培用の早生～中生種
・いもち病抵抗性は葉いもち“強”，穂いもち“中”で「ヒノヒカリ」より強い
・高温登熟耐性が強く，玄米外観品質が優れる
・千粒重はやや重く，収量は約10%多い
・食味，稈長，穂長，穂数，倒伏程度は同程度

品種名 ＼ 項目	玄米重 (kg/a)	ヒノヒカリ比	千粒重 (g)	玄米外観品質
鹿児島72号	59.8	114	22.7	4.3
ヒノヒカリ（指標）	52.5	100	20.9	6.5

注)1．玄米外観品質は1（上上）～9（下下），10（規格外）の10段階評価

◎耐倒伏性が「ヒノヒカリ」と同程度のため，極端な多肥栽培は避ける。
◎トビイロウンカ抵抗性遺伝子*bph11*を有しているが，
　トビイロウンカの防除は「ヒノヒカリ」と同様に行う必要がある。

期待される効果

○異なる熟期で作期分散

品種 ＼ 月	6 上	6 中	6 下	7 上	7 中	7 下	8 上	8 中	8 下	9 上	9 中	9 下	10 上	10 中	10 下
ヒノヒカリ	△	———	———	———	———	———	———	◎	----	----	----	----	●		
鹿児島72号	△	———	———	———	———	———	———	◎	----	----	----	----	----	●	
あきほなみ	△	———	———	———	———	———	———	———	◎	----	----	----	----	----	●

△：移植期，◎出穂期，●成熟期

○いもち多発年の収量安定化

○夏季の高温年の品質安定化

○生産者の所得向上と労力分散

○普及対象・範囲
　県内の水稲普通期栽培地域の生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部作物研究室

（R04）